

埼 事 研 第 6 5 号
平成28年9月6日

各市町村教育委員会教育長
各市町村立小・中・特別支援学校長
各 教 育 事 務 所 長 } 様

埼玉県公立小中学校学校事務職員研究協議会
会 長 山 川 睦 美

平成28年度 第48回埼玉県学校事務研究大会開催について（依頼）

このことについて、下記のとおり埼玉県学校事務研究大会を開催いたします。

つきましては、この研究大会を盛大かつ実りあるものにしたいと存じますので、公務ご多用の折とは存じますが、貴校学校事務職員の参加について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 大会テーマ 「CHANGE（変化）をCHANCE（機会）に！ 学校事務の充実は、学びの充実」
～ 学 校 ガ バ ナ ン ス ～
- 2 目 的 子どもたちの豊かな育ちを支援するために、教職員・関係諸機関・地域と協働する
学校事務の研究を通して、学校教育の充実及び発展に寄与する。
- 3 共 催 埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会
- 4 期 日 平成28年10月18日(火) 9時30分～16時30分
- 5 会 場 北本市文化センター 大ホール
〒364-0033 北本市本町3-1-1
TEL 048-591-7321
- 6 日 程
 - (1) 受付 9時30分～ 9時45分
 - (2) 開会行事 9時45分～10時15分
 - (3) 県教育委員会講話 10時15分～11時15分
 - (4) 全事研山形大会報告・全事研会長講演 11時15分～12時00分
 - (5) 昼食 12時00分～13時00分
 - (6) 研究発表・協議 13時00分～16時30分

7 内 容

(1) 県教育委員会講話

演 題 「埼玉教育の現状と学校事務職員に期待すること」

講 師 埼玉県教育局市町村支援部小中学校人事課 課長 関口 睦 様

(2) 全事研山形大会報告・全事研会長講演

埼玉事研本部山形大会プロジェクトチーム

全国公立小中学校学校事務職員研究会 会長 鳥本 安博 様

(3) 研究発表・協議

埼玉事研本部研究担当

① 「平成27年度調査にみる学校事務職員の実態及び意識」の調査報告

埼玉事研本部山形大会プロジェクトチーム

② 彩の国 学校事務NEXT!

～地域との協働による学校づくりと事務職員の役割～

助言者 埼玉県教育局市町村支援部小中学校人事課 主幹 南雲 世匡 様

埼玉県中学校長会 様

全国公立小中学校学校事務職員研究会 会長 鳥本 安博 様

8 参加者

埼玉県公立小・中・特別支援学校事務職員

さいたま市立小・中・特別支援学校事務職員

※さいたま市非会員の方は、参加費（集録代等）をご負担願います。

9 注意事項

- (1) 当日、別紙「参加票」を受付時間（9：30～9：45）に提出してください。
- (2) 昼食の斡旋は行いませんので、各自でお願いいたします。第一研修室を昼食会場に用意しています。
- (3) 研究集録は、事前配布いたしますので当日必ずご持参ください。
- (4) 公共交通機関をご利用ください。

* 研究大会準備委員は、準備のため8時40分にご集合ください。

*この研究大会は教小第276号(平成28年8月4日付)埼玉県教育委員会共催承認済です。

*この研究大会は教学教職第2804号(平成28年8月30日付)さいたま市教育委員会共催承認済です。

第48回 埼玉県学校事務研究大会

大会テーマ 「CHANGE(変化)をCHANCE(機会)に！

学校事務の充実、学びの充実」

～ 学校ガバナンス ～

平成26年度より策定している第三次研究中期計画の3年次となりました。今次研究中期計画の研究テーマであり、大会テーマでもある「CHANGE(変化)をCHANCE(機会)に！学校事務の充実、学びの充実」は、学校を取り巻く様々な変化や課題をどのように好機として捉えていくか、また、学校の事務を充実させることで、学校教育の充実・発展に寄与し、未来を担う子どもたちの豊かな育ちへとつなげていこうではないかと考え設定しています。

今年度の年次別課題は、「学校ガバナンス」です。ガバナンスは、様々な定義の中で、一般的に「組織が自らをうまく統治できること」と理解されています。学校・保護者・地域・関係諸機関それぞれが、当事者意識を持ち、責任を果たし、組織運営を行っていくことは学校ガバナンスにつながります。

平成27年12月、中央教育審議会は、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」等3本の答申を文部科学大臣に提出しました。その中には、事務体制の強化として事務職員の職務や共同実施組織を法令上明確化することや、研修機会・内容の充実を図ることが提言されています。今後の様々な取組に対する影響を注視するとともに、大きなChange(変化)をChance(機会)ととらえ、子供の豊かな学びのために、事務職員が自らの専門性を発揮し、学校事務体制を強化することが必要です。

研究大会を通して、学校事務の専門性と今後の学校事務の在り方について会員の皆さんとともに考えたいと思います。皆さんのご協力をお願いします。

講演

講師 埼玉県教育局市町村支援部小中学校人事課 課長 関口 睦 様

演題 「埼玉教育の現状と学校事務職員に期待すること」

山形大会報告

平成28年8月3日～5日に開催された全国公立小中学校事務研究大会山形大会において、埼玉支部として第1分科会を担当しました。その参加報告と、全事研鳥本会長による講義を行います。

研究発表

第三次研究中期計画3年次の課題である学校ガバナンスについての研究発表と、それを基にした研究協議を行います。また、平成27年度に行った埼事研会員を対象とした意識及び実態調査についての報告を行います。

***** 研究発表 1 *****

平成27年度調査にみる学校事務職員の実態及び意識

埼玉研は、研究・研修活動推進の基礎的資料とするために、県内学校事務職員の職務の実態及び意識について、平成20年度および平成24年度に全会員を対象とする調査を行い、さらに、平成27年12月から翌年1月にかけて、3回目の調査を実施しました。本調査で得られた埼玉県为学校事務職員の現在の職務の実態や意識について、過去の調査との比較も含めて報告します。

***** 研究発表 2 *****

彩の国 学校事務NEXT!

— 地域との協働による学校づくりと事務職員の役割 —

埼玉県内では、地域との協働による様々な取組が行われ、各市町村での小中一貫教育も推進されているところです。事務職員を取り巻く状況については、平成23年度に埼玉県教育委員会より共同実施を促進する方針が示され、県費事務システムの導入による学校事務のICT化が進むなど、そのあり方は大きな転換期にあります。加えて本格的な世代交代期を迎え、20代30代の占める割合が5割を超えたことから、これまでベテラン層の築きあげてきた知識やノウハウの継承も課題となっています。

地域とともにある学校づくりの推進は、学校運営の主体を設置者及び学校のみ捉えるのではなく、広く関係組織との連携・協働の中で捉えなおす、学校のガバナンス改革の一つと考えます。地域を担っていく子どもを育むための学校づくりに対し、事務職員も自らの専門性を通して、学校の総合力を高める力を発揮していくことが大切と考えます。

埼玉県公立小中学校事務職員研究協議会では、グランドデザインを策定し、目指す事務職員像を「学校の内外をつなぎ広げ、学校力を高める学校運営スタッフとしての事務職員」と定め、その具体的なあり方について研究を進めています。本研究発表では、次世代を担う子どもを育むための学校づくりにおける学校事務機能や、地域の学校教育を推進する事務職員の役割について考え、特にこれからの学校を担うミドルリーダー層に必要な能力と力量形成について提案します。

研究協議

柱1 地域との協働による学校づくりと事務職員の役割

柱2 次世代型学校事務、身につけるべき能力と力量形成の在り方